

●行政情報●

令和7年度食料・農業・農村白書の概要 ～いも類をめぐる状況について～

なかざわ たてお
中澤 健雄
一般財団法人いも類振興会需要推進部長

本年5月29日に令和7年度の食料・農業・農村白書（以下、農業白書という。）が公表された。

農業白書では第1部食料・農業・農村の動向において特集としてコメの安定的供給が取り上げられている。トピックス1として地域農業の将来を描く地域計画の取組の重要性が述べられている。令和7年が昭和100年に当たることから、トピックス2特別企画 昭和100年を振り返ってと題してこの100年の農政の動きが記述されている。

ついで第1章 世界の食料需給と我が国の食料供給の確保、第2節わが国における食料の供給の部で主要な食料の生産状況が紹介されている。いも類に関する記述は以下のとおり。

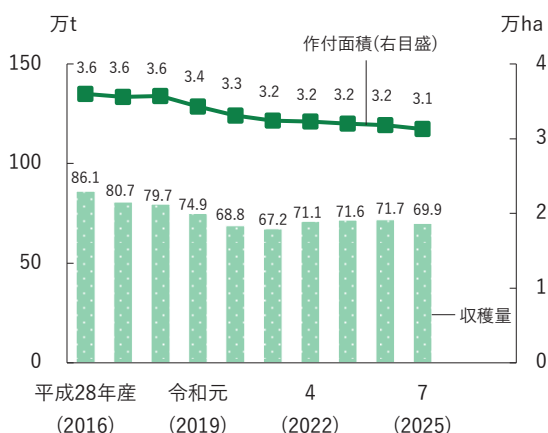
（かんしょの収穫量は前年産に比べ減少）

令和7（2025）年産のかんしょの作付面積は、3万1千haと、前年産に比べ1.6%減少した（図表）また、収穫量は69万9千tと、前年産に比べ2.5%減少した。

農林水産省では、共同利用施設の整備や省力化のための機械化体系確立等の取組を支援しており、また、サツマイモ基腐病の発生・まん延の防止を図るため、健全な苗の調達等を支援するとともに、対策技術等に関する研究開発を進め、防除技術の確立・普及に向けた取組を推進している。

なお、令和5（2023）年度に、一部のほ場でサツマイモ基腐病と異なる腐敗症状を呈するかんしょが確認されたことから、緊急対応のための研究課題を立ち上げた。令和7（2025）年度からは、新たな総合防除体系の確立に向け、抵抗性品種の選定や農薬の活用、伝染源・発生助長要因の特定・除去等の研究を進めている。

かんしょの作付面積と収穫量



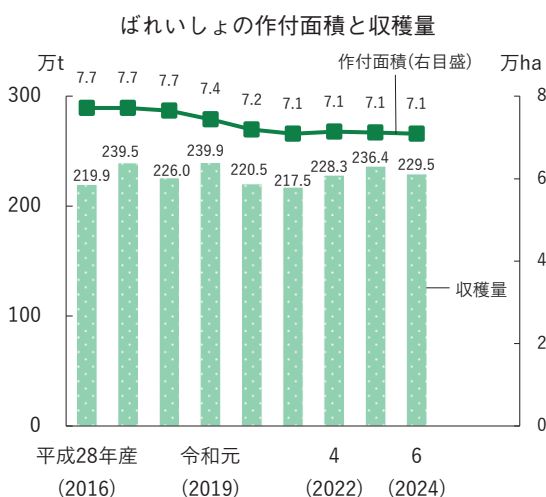
資料：農林水産省「作物統計」
注：令和7（2025）年産は概数値

（ばれいしょの収穫量は前年産に比べ減少）

令和6（2024）年産のばれいしょの作付面積は7万1千haと、前年産に比べ0.4%減少した（図表）。また、収穫量は229万5千tと、前年産に比べ2.9%減少した。

農林水産省では、省力化のための機械導入や収穫時の機上選別を倉庫前集中選別等

に移行する取組を支援している。また、ばれいしょ生産に必要な種ばれいしょの確保に向けた取組を支援するとともに、ジャガイモシストセンチュウ等の発生・まん延の防止を図るため、抵抗性品種への転換や共同利用施設の整備等を推進している。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

最後に令和7年度に行ったかんしょ・ばれいしょの施策について以下のとおり紹介している。

かんしょについては、共同利用施設の整備や機械化体系の確立等への取組を支援した。でん粉原料用かんしょについては、多

収品種への転換や生分解性マルチの導入、作業受委託体制の構築等の取組を支援した。サツマイモ基腐病については、健全な苗の調達等を支援するとともに、防除技術の確立・普及に向けた取組を推進した。

ばれいしょについては、生産コストの低減、品質の向上、労働負担軽減等を図るための共同利用施設の整備等を推進した。また、収穫作業の省力化のための倉庫前集中選別への移行やコントラクター等の育成による作業の外部化への取組を支援した。さらに、ジャガイモシストセンチュウやジャガイモシロシストセンチュウの抵抗性品種への転換を促進した。

種ばれいしょ生産については、り病率の低減や作付面積増加のための取組を支援するとともに、原原種の配布品種数の適正化や、需要に応じた複数年計画による種苗生産の取組を推進した。

糖価調整制度に基づく交付金により、国内産いもでん粉の安定供給を推進した。

令和7年度食料・農業・農村白書（令和8年5月29日公表）全体版

https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r7/index.html